

第3回専門部会が出された意見

1 指針全体に関すること

- ・ この指針を最初に策定した当初からこれまでの広島市の変化（人口減少等）を受けて、一定規模の人口維持が必要で、そのためにも外国人の定着も必要という背景があるとよいのではないか。
- ・ 指針が目指すスピリットが薄い。「前は〇〇を進めた、今回は□□をめざす」というような書き方ができるとよい。広島らしさ、人権の要素を趣旨に含め、大きな方向性を示したらよいのではないか。
- ・ 日本語教育においても外国人市民の多様化やライフステージによりニーズが異なり、限られた資源でいかに対応するかが課題。
- ・ 趣旨で外国人市民についてこれから何が課題なのかももう少し触れた方がよい。
- ・ 趣旨に「外国人のニーズ」に沿った施策を実施することを含めてほしい。
- ・ 意識調査について在留資格別でも分析をした方がよい。
- ・ 「外国人材」の「人材」という表現は非人間的な感じがする。
- ・ 観光客を対象としないことについて、肯定的な書き方にするほうがよい。
- ・ 「外国人市民等」の定義が必要。
- ・ 市民側に求めることも記載すべき。
- ・ 「検討する」という表現をもっと進めた表現にできないか。
- ・ 「多文化共生の意識」という表現が曖昧なので、重要な要素である「人権」の概念について「人権意識の啓発」という形で書き加えるとより意味が明確となる。

2 課題の整理について

- ・ 区の窓口等だけでなく、庁内全ての部署で適切に支援を行う体制づくりの必要性についても言及するとよい。

3 目標に関すること

- ・ 目標1の「外国人市民の暮らしやすさに配慮したまちづくりの推進」は、「・・・安心安全に暮らせるまちづくり」としてはどうか。
- ・ 安心・安全に暮らすことに加え、キャリア形成など「よりよい自分」になれる、「ウェルビーイング」を取り入れてはどうか。

4 目標1 基本施策1 コミュニケーション支援について

- ・ 日本語教育人材の養成に加えて「確保」も必要だ。大学院で日本語教育を専攻した学生の流出を防ぎたい。
- ・ 外国人相談窓口の機能強化、コーディネート機能、確実に支援につなぐこと、フォローアップも重要。
- ・ 「読む」「書く」ができない人が増えており、日本語教育の必要性が高まっている。
- ・ 日本語能力の「読む」「書く」「話す」のうち、「書く」能力はハードルが高い。

- ・ どのような学びをすれば自己実現に繋がり広島市で貢献できる人材になっていくか考えたい。
- ・ 漢字圏の外国人の割合が減少しており、日本語の読解力に影響してくる。
- ・ 市民の英語能力のレベルアップも必要ではないか。それにより外国人市民を受け入れる意識の醸成に繋がる。

5 **目標 1** 基本施策 2 生活支援体制の充実について

- ・ 母語教育について、小学校では認識されつつある。また、保育園レベルでは広島県は他県に比べて意識が高い。
- ・ 5～6歳で日本に来た子どもは、日本語も母語も中途半端にしか習得できず、「ダブルリミテッド」の状態に陥る可能性があることにも配慮しないといけない。
- ・ 「就労・雇用に関する相談があった場合」という表記は受け身的な印象。

6 **目標 1** 基本施策 3 外国人市民等が活躍するまちづくりについて

- ・ 受け入れる側の地域団体（町内会等）側の認識の促進も課題として挙げるとよい。

7 **目標 2** 基本施策 1 交流機会の創出について

- ・ 日本人市民が外国人市民から学ぶ、外国人市民同士が学びあう、という要素があるとよい。

8 **多文化共生施策の推進体制の整備**

(2) 多様な主体との連携・協働

- ・ 外国人市民と社会福祉協議会や地域の団体をうまく繋げていくことが必要。
- ・ 社会福祉協議会が外国人市民の支援をする地域を助成するなど、多文化共生に関わる事業に繋がるようにしていくとよい。